

持続可能な社会とエウダイモニア

鶴本明久

(鶴見大学歯学部予防歯科学講座)

拝啓

今回も論文どころか、やっとの思いで「レター」を書いています。「雑用」を英語で何と言うのかわかりませんが、等比級数的に増殖します。

もう20年以上も前になるのですが、私が大学院生で医科歯科の志村先生と高江洲教授を訪ねた時に、いきなり高江洲教授が、「考えると眠れないことがあるけど、何だと思うか？」

と質問されました。何だか、地下鉄の話みたいだなと不真面目に考えていたら、「それは、世界の人口増加だよ！」

とおっしゃった事を強烈に覚えています。何かと高江洲教授から御指導を受けるようになったのは、それが契機だったように思います。先生は単に人口増加による資源の不足や環境汚染だけを心配されていたのではなく、無軌道な文明・科学の発達が人々の思想を劣化させ、行動の醜陋を誘発し、いずれは「文明の衝突」を起こすであろうと歴史的に見た「人類の衰亡」を警告されていたように思います。哲学の重要性を常に強調されていました。私にも、行動科学の勉強をしっかり進めるようアドバイスし続けて頂きました。勿論、私も「人に歯を磨かせるため」「喫煙を止めさせるため」に歯科における行動科学の重要性に注目していたわけではないので、その示唆が非常によく理解できました。しかし、高江洲教授が憂慮されていたような状況が進んでいることは誰もが認めることではないでしょうか。楽観的にも、行動科学はその解決のために何か寄与できると考えてい

ましたが、残念ながらそうでもないようです。すべての領域においてエントロピーの膨張へと「複雑系」が作動しているのです。実際のところ今起きている環境、貧困、モラルの問題は「複雑系」と「カオス」の中にあるヒトの行動によって起きていると思えるのです。

よく「大きな政府」を選ぶか「小さな政府」とすべきか議論がされますが、前者は「福祉社会」を、後者は「自由競争社会」を目指す典型的な体制と考えられています。ただし一つの軸では両極にある体制ですが、もう一つの軸では限らない成長拡大路線にあることは共通です。つまりどちらの体制を選択しても「文明は限りなく発展する」という前提の元での発想なので、エントロピーの際限なき膨張を止めるものではないのです。この危機を救うのは「これ以上の文明の進歩はない」という「定常型社会」を目指すことであると思うのです。広井良典が「持続可能な福祉社会」（ちくま新書）で提案していることです。この本はとても重要な本だと思います。行動科学も含めてこれまで成長することを絶対的なテーゼとしてきた科学の目的には合いそうにありません。この提案は、これ以上の便利さ、物的な「ゆたかさ」の追求を放棄しなければならないかもしれません。しかし、このダイナミックな発想の転換が比較的容易なのが、理科系科学の中では、行動科学かもしれません。ただし、それには哲学の力が不可欠だと思います。

行動科学は、その生い立ちのせいかなんか実験心理学や数学的解析により説明できないものを排除する

傾向があります。この側面は行動の一般的法則を理解する科学という目的からも重要な側面であり、「行動分析学」がその最も特徴的な領域といえるかもしれません。しかし、これだけでは何かを加えない限り「持続可能な福祉社会」の創造に参加することはできないのではないのでしょうか。

昨年、中村譲治先生にアリストテレスの「人の行動はどのような人生の目的のために起きるのか？」といった「ニコマコス倫理学」のすごさを教えて頂きました。アリストテレスは、日常的なヒトと動物の行動の徹底した観察から、行動の法則に言及しています。そして人生の目的を「エウダイモニア」（善く生きていること、善くやっていること）という概念で説明しています。中村先生が、実は我々が考えようとしている事を2,300年前にアリストテレスが解決しているとおっしゃっていました。アリストテレスの行動科学には、実験心理学も統計学的分析もありませんが、

見事なまでにすべての「行動」の一般法則を証明しています。そして様々の行動の先にあるのか「エウダイモニア」としているところは、ヘルスプロモーションの概念そのものではないでしょうか。コントロールを失った人々の行動によるエントロピーの破滅的膨張のブレーキとなるのが「エウダイモニア」を考えることのような気がします。「定常型社会」の確立は、哲学に先導された行動科学によって実現するというのは如何でしょうか。

昨年は、塩野七生が一年に一冊づつ書き贈った「ローマ人の物語－ローマ世界の終焉－」第15巻（最終巻）が出されました。来年から一年に一度やってくる楽しみがなくなりますが、何か不思議な達成感があります。ローマの終焉は、驚くほど静かな歴史的滅亡でした。意外とそのようなものなのですね？この最終巻の出版は、私にとって今年度の重要なイベントの一つでした。

【著者連絡先】

〒230-8501 神奈川県横浜市鶴見区鶴見2-1-3

鶴見大学歯学部予防歯科学講座

鶴本明久

TEL : 045-580-8375

E-mail : tsurumoto-a@tsurumi-u.ac.jp